

□□□ 伊勢志摩サミット国際メディアセンター仮施設設 □□□

平成28年5月26日、27日に伊勢志摩サミットが開催されました。この国際メディアセンター仮施設設ですが、国内外の報道関係者の業務拠点となる国際メディアセンターの設置にあたり、既存の三重県営サンアリーナを最大限活用した上で、不足する部分を仮施設設として整備するものです。開催期間中は、各国の報道関係者等をお迎えする施設として、「和」を感じさせる演出などを行いました。また、躯体・仕上の簡素化、リース品の活用のほか、リユース・リサイクル率の向上を徹底し、地元自治体等へリユース材を提供するなど、昨年10月にその解体(取りはずし)を終え、無事この事業は終了しました。

◇◆◆◆◇ 目 次 ◇◆◆◆◇

営繕部長	年頭の所感
計画課	「公共建築の日」「公共建築月間」中部地区イベントを開催
計画課・建政部	住宅整備課【共同寄稿】
	防災・減災パネル展「南海トラフ巨大地震に備える」
静岡県	【特別寄稿】
	公共建築の日 記念講演会「構造は建築のために何ができるか？」
調整課	平成28年度「中部ファシリティマネジメント研究会」について
調整課	平成28年度中部地区地球温暖化対策関係省庁連絡会の開催について
技術・評価課	顧客満足度調査(CS調査)について [静岡地方法務局藤枝支局]
整備課	静岡営繕事務所
	浜松市立入野中学校への出前講座「防災とユニバーサルデザイン」



営繕部長 年頭の所感

中部地方整備局
営繕部長 小山 貢美雄

新年あけましておめでとうございます。新しい年を迎えるにあたり、新たな気持ちで何事にも前向きに取り組んでいきたいと思っております。

さて、名古屋駅周辺の景観が大きく変わりつつあります。昨年も、大名古屋ビルヂング、KITTE 名古屋(JP タワー名古屋)、JR ゲートタワーと軒並み高層の新ビルが完成するなど、2027年のリニア中央新幹線開通にむけた躍動を感じます。こうした動きのなか、中部地方整備局は名古屋城近くの「名古屋合同庁舎第2号館」に所在しています。初めてここを訪れた春、市内中心部とは思えない木々の緑に包まれた、落ち着いた官公庁街にあるという印象を抱きました。

これまで中部管内の国の庁舎では、地域の安心・安全を支え、南海トラフ巨大地震への備えとして、耐震化の目標を定め計画的にその対策を行っています。中部圏地震防災基本戦略に基づき、昨年、大災害発生時この第2号館に政府の現地対策本部が設置出来るようにそのスペース・機能確保を目的とした改修工事も終えたところです。

官公庁街と言いましたが、この街区は都市計画法上、昭和34年「名城郭内 一団地の官公庁施設」に指定されていて、あわせてこの街区及びその周辺に所在する官署等で名城郭内申し合わせを定め、連携して都市の美観・環境保全等に取り組んできた歴史があります。

その特徴です。まず県庁前交差点から西に伸びる道路、800m弱の櫓並木を基軸としていて、道路境界からの建物壁面の後退距離や建物高さの取り決めなど。またこの一帯信号機が設置されていないこともあげられます。

この区域は実は「ロケ地」としても注目されています。「劇場版 MOZU」をはじめとする映画やドラマのロケ地ともなっています。一番の魅力は、「東京の霞が関に似ていること、そのほか、道路が歩道を含めて30mと広く、カーチェイスの場面の撮影もしやすいこと」という記事を目にしました。

次に、名古屋テレビ塔と名古屋城を結ぶ直線上にもあり、テレビ塔展望台から見える天守閣の景観を損ねないように庁舎配置や高さの検討が実施されてきたことです。

出来れば、これから名古屋城を訪れた観光客がこの地を併せて訪れて、さらに名古屋の魅力を感じてほしい。そのためにも、諸先輩が取り組まれてきたこの区域の空間のもつ魅力を維持していきたい。新しいものを構築する視点だけではなく、既存のものを最大限活用し、活用にあたり守るべきものは何かを見定め、引き続き、育てていきたいと改めて感じた次第です。

ここでは名古屋市でしたが、中部管内には、所管施設260施設、約80万㎡もの官庁施設があります。営繕部では、管内を39地域に区分けし、既存施設の徹底利活用の考えのもと、「地域における官庁施設整備構想」を策定しており、その熟度を着実にあげていく考えです。

最後になりますが、中部管内の地域づくり、国土づくりを担う整備局の一員として、官庁施設の整備、その活用等を通じて、地域のためにしっかりと取り組んでいきたいと思っております。本年も引き続きよろしくお願い申し上げます。

「公共建築の日・公共建築月間」中部地区イベントを開催

■公共建築の日・公共建築月間

「公共建築の日」及び「公共建築月間」は、広く国民共有の財産である公共建築に対する理解、関心を深めていただく目的で平成15年に定められ、関連イベントの開催は今年で14回目になります。

今年度は、名古屋市内及び静岡市内で講演会を開催すると共に、中部管内4県・3政令市の営繕担当部局と中部地整営繕部・建政部合同企画による「南海トラフ巨大地震への平時の備え」、「熊本地震支援」に関する防災・減災パネル展を開催しました。

講演会：「施設を良好に末永く活用するために」

主催： 「公共建築の日」及び「公共建築月間」中部地方実行委員会

後援： 中部地方整備局・岐阜県・静岡県・愛知県・三重県・静岡市・浜松市・名古屋市

1. はじめに

平成28年11月17日(木)、フジコミュニティセンター(名古屋市)において、約110名の参加を得て、施設の長寿命化をテーマとした講演会を開催しました。

我が国では、高度成長期以降に集中的に整備された社会資本が、今後急速に老朽化することが見込まれており、既存の公共建築物を含む社会資本に対して、トータルコストの縮減や予算の平準化を図りつつ、適正かつ計画的な維持管理・更新、統廃合、長寿命化等を行っていくことが喫緊の課題となっています。

本講演会は、「施設の長寿命化」に関する事例を通して、実施手法や留意点の把握等知見を深めることにより、公共建築物の有効活用の取組みの更なる強化、並びにその重要性の周知を目的として企画したものです。

2. 講演の概要

講演1.

地方自治体オフィスのリニューアル

～三重県庁本庁舎の改修計画を事例として～

三重県伊勢建設事務所 建築開発室長 安藤 亨氏



出典：三重県広聴広報課HP

大規模施設の改修計画時には、執務への影響懸念により工事協力が得られない等で、本来やるべき改修が実施困難な事態となる場合があり、庁内合意形成のための効果的な手法を準備することが重要となってきます

安藤氏は、三重県庁本館の改修において、まず自ら所属する建設関係4課の執務スペースを先行して実施し他部署に改修箇所を見せて説得し、PDCAサイクルを回しながら改善を図り、次に庁舎4階の全体に範囲を拡大し、更に全館改修へと範囲を拡大していく多段階方式を採用したことを紹介されました。また、入居者説得時の簡易模型の活用や、余分な予算を掛けずに楽しい空間を演出する色彩採用の実例などを紹介されました。

講演2.

京都駅ビルを100年維持するために

～Strategies to sustain Kyoto Station Building for the next century～



京都駅ビル開発 株式会社
取締役・管理部長 高浦 敬之 氏

出典：京都駅ビル開発(株)HP

平成5年に建築確認を受け平成9年に竣工した京都駅ビルは、建築基準法改正による旧38条に係る部分が防火規定上既存不適格、構造規定でも既存不適格部分有りという状況の中、「この建物をモニュメントとして朽ち果てさせるわけにはいかない」また、過去の景観論争や京都議定書を踏まえ、環境モデル都市京都の「お荷物になるわけにはいかない」との施設管理者としての気概が伝わってくる講演内容でした。

大勢の人が利用する巨大施設の安全・安心と環境性能を確保するため、地元行政と粘り強く協議を重ね防災設備・熱源設備の更新を実現させたこと、更新にあたっては単なる老朽取り替えではなく、改修時点での求められている整備水準の設備に改修し、建物を高水準に維持することが100年建築を実現するためには不可欠であるとの説明はたいへん参考になりました。

講演3.

ストック建築の最大活用・教育改革への対応とFM業務の実践

～ 既存研修施設を医療系4年制大学として活用 ～

株式会社 NTTファシリティーズ
ファシリティマネジメントビジネス本部
副本部長 赤川 寛 氏



出典：鈴鹿医療科学大学HP

赤川氏は、廃止となった旧 NTT 鈴鹿研修センターを鈴鹿医療科学大学の白子キャンパスとして活用した事例を紹介されました。

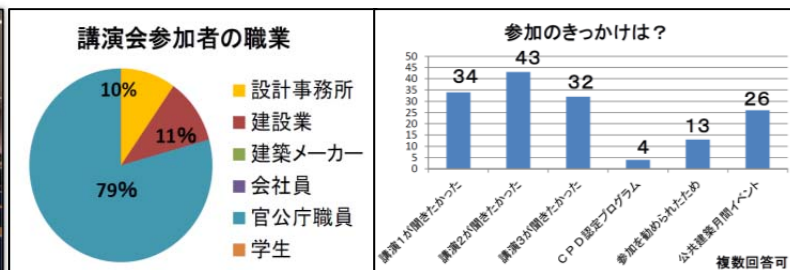
既存の棟毎の用途を最大限に活かす改修計画を立案し、7年間にわたり順次リニューアルしていった、中部地方における数少ない最近のコンバージョン事例であり、今後の施設活用のあり方を考える上で貴重な事例です。

既存施設を有効活用している本件は、公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会からも高く評価され、平成28年2月25日東京都にて開催された第10回日本ファシリティマネジメント大賞授賞式にて、「優秀ファシリティマネジメント賞」を受賞されています。

また(株)NTTファシリティーズは、コンバージョン物件を多数手がけた実績があり、今回の講演でも「旧逓信省芦屋別館」、「旧山田郵便局電話分室」をレストランとして再生させた事例等を紹介して頂きました。

3. おわりに (アンケート結果より)

- ◆ 「講演会が参考になった」と回答した割合は約82%であり、概ね好評だった。
- ◆ 参加者の79%が官公庁職員であり、もう少し民間の方々の参加を増やしたい。
- ◆ 女性参加者が7%、年齢層は20代以下が11%と少なかったことが今後の課題である。



防災・減災パネル展

「南海トラフ巨大地震に備える」

～東日本大震災の教訓と熊本地震を通して～

営繕部 計画課、建政部 住宅整備課

1. はじめに

東日本大震災から5年が経過し、震災の記憶を風化させない取り組みが進められている中、熊本地震の発生により住宅・建築物における甚大な被害状況を目の当たりにし、改めて南海トラフ巨大地震に対する平時の備えの大切さを再認識したところです。

熊本地震の被災地では、「被災建築物応急危険度判定」や「応急仮設住宅の供与」等の早急な対応が求められ、中部地方の国、県、政令市からも多くの建築技術者を被災市町へ派遣し、その果たす役割の重要性がたいへん注目されました。

2. 防災・減災パネル展の開催

東日本大震災の教訓を踏まえた中部管内の防災・減災の平時の取り組みと、熊本地震における建築技術者の支援等について、「取り組みのハードとソフトの両面」を広く地域の皆さまにお伝えしたいと考え、防災・減災パネル展:「南海トラフ巨大地震に備える」を開催しました。

本パネル展は、中部管内4県・3政令市の営繕担当部局と中部地整営繕部・建政部が、データを提供し合って企画しました。

大勢の皆さまにご覧いただけるように、市役所・県庁・国合同庁舎の玄関ロビー等を展示場所とし、平成28年10月～12月下旬までの間、中部管内各地において巡回展示を行いました。



名古屋合同庁舎 2号館
本庁舎 1階ロビー



静岡市役所
玄関ホール



(同 左)

【展示場所】

- 名古屋合同庁舎第2号館 玄関ホール
- みえ県民交流センター交流スペース
- 名古屋市役所西庁舎2階の一部
- 静岡市役所本庁舎1階ロビー
- 岐阜県庁2階正面玄関ロビー
- 浜松市役所西庁舎1階市民ロビー

「構造は建築のために何が出来るか？」

主催： 静岡県公共建築推進協議会、（一社）日本建築学会東海支部静岡支所

共催： （一社）公共建築協会

静岡県と県内 21 市2町で構成する静岡県公共建築推進協議会では、毎年 11 月に「公共建築の日」を記念した講演会を開催しています。

今年度は、法政大学の川口衛名誉教授を講師に迎え、「構造は建築のために何が出来るか？」と題して、東京オリンピックの会場となった国立代々木競技場(1964 年竣工)をはじめ様々な作品を事例としながら、構造がデザインにどのように貢献しているかをお話いただきました。会場は、静岡県産業経済会館大会議室で、県内外から計 99 名(国県市町職員 48 名、その他 51 名)が出席しました。

川口名誉教授は、これまで国内外で数多くの建築物・土木構造物の構造設計を手掛けておられますが、今回は新旧様々なオリンピックスタジアムを例にとり、その利点欠点を構造的観点からお話いただきました。特に国立代々木競技場においては、その特徴的な屋根曲面を再現するにあたり、施工中に起こりうる問題をどのように考え解決していったかを詳細にお話いただきました。

大規模な模型実験の様子や、動画も交え、非常に分かりやすく見ごたえのある内容でした。講演全体としては、大規模建築物は施工方法が重要であること、建築家はアーティストではなく実現能力が求められること、健全なスケール感覚を持つことがいかに重要であるかを、まとめとしてお話いただきました。

折しも、2020 年開催予定の東京オリンピックのスタジアム建設においては、計画・設計段階における諸問題が話題になったこともあり、聴講者は現在の状況と比較しつつ興味深く聴いている様子でした。



講師(川口衛氏)



聴講風景

<(参考)過去 5 年間の講演会講師とテーマ>

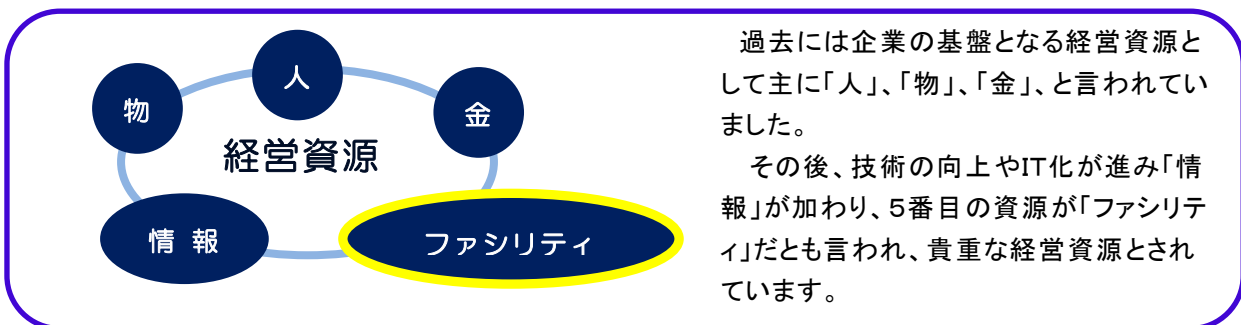
開催日	講師	テーマ(タイトル)
平成 23 年 11 月 15 日	長澤 悟 氏 (東洋大学教授)	地域の核となる公共建築 —緊急提言「東日本大震災の被害を踏まえた学校施設の整備について」を中心に—
平成 24 年 11 月 8 日	斎藤 公男 氏 (日本大学名誉教授)	建築の翼 アーキエリングデザインとは何か
平成 25 年 11 月 8 日	長谷川 逸子 氏 (建築家)	公共空間・ランドスケープアーキテクチャー
平成 26 年 11 月 18 日	古橋 秀夫 氏 (公益社団法人全国ビルメンテナンス協会専門委員)	持続保全性の高い建築を求めて —FM に基づく建築生産プロセスの在り方—
平成 27 年 11 月 17 日	恒川 和久 氏 (名古屋大学准教授)	まちづくりとしての公共施設マネジメント

取り組んでいます!!!

「中部ファシリティマネジメント研究会」

営繕部 調整課

中部ファシリティマネジメント研究会（以下、「FM研究会」という）は、『既存の施設を有効利用しつつ、複数の施設を群として捉えた施設計画の策定等により、総合的に企画・管理し整備する手法（FM 手法）』を活用し、地方公共団体を含めた官公庁施設整備において、FMに関する最新の技術・情報を共有し、各種問題点の解決、普及・啓発を図ることを目的としています。



過去には企業の基盤となる経営資源として主に「人」、「物」、「金」、と言われていました。

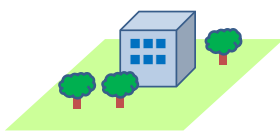
その後、技術の向上やIT化が進み「情報」が加わり、5番目の資源が「ファシリティ」だとも言われ、貴重な経営資源とされています。

FM研究会のメンバーは、東海ブロック営繕主管課長会議構成員及び管内の国の機関、地方公共団体で構成し、開催にあたっては、営繕部調整課が事務局として取り組んでいます。

ファシリティとは・・・

- ◆事業を遂行するために使用する敷地や建物などの施設
- ◆執務環境、居住環境などの施設内部の環境
- ◆施設が立地する地域を含む外部の環境

土地、建物、設備等
(業務用不動産)



保有
・
賃借

使用
運営
維持

FMはファシリティを最適な状態（最小のコスト、最大の効果）とするための総合的な経営管理活動

※JFMAホームページを参考に作成

本研究会は、平成16年より毎年企画し、これまでに通算67回開催してきました。参加者は、国や地方公共団体の職員を対象に資産運営、施設管理、管財、都市計画、営繕、総務などいろいろな部門から、延べ約2,600名余の方々に出席していただき、関心の高いものとなっています。

国においては、社会資本整備審議会建築分科会建議「国家機関の建築物を良質なストックとして整備・活用するための官庁営繕行政のあり方について」(平成18年7月20日)に基づき、実施すべき施策として示された効果的・効率的なFM手法を行うことによる良質なストックとしての整備・活用を推進することとなっています。また、財務省は「新成長戦略における国有財産の有効活用について」(平成22年6月18日)の中で国有財産の維持管理においてFM手法を取り入れることとしています。近年では、地域と連携した国公有財産の最適利用として、「まち・ひと・しごと創生

総合戦略(2015 改訂版)」においても生活サービス機能等の誘導による都市のコンパクト化を行う事としており、国公有財産の最適利用を図ることになっているため、今後もより一層、FM手法を取り入れた整備が求められていくと思われま

【平成28年度での開催概要】

■ 第1回 ■ 広い視点で中部圏を理解するため、6月16日(木)に、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社の河合修治氏をお招きし、「コンパクトシティの推進にみる明と暗」について講演していただきました。人口減少の対処としてコンパクトシティ化が求められており、公共交通網の再編、都市機能の誘導などの施策が展開されている中で垣間見える利点や効果としての「明」と自治体で困っている事項を「暗」としてとらえ、解決策と共に中部圏の特性や方向性についても講演してもらいました。



講師：河合氏

■ 第2回 ■ 先導的な取組の具体例として、8月24日(水)に、浜松市から松野英男氏をお招きし、「公共施設等総合管理計画を実践するための方策例」～資産運営の取組み～について講演していただきました。財政難、少子高齢化、インフラ・ハコモノの更新問題など多くの自治体が抱える課題に対し、いち早く取組を実施し、成果を上げている浜松市の事例は参加した自治体にとって非常に役立つ内容であり、とても高評価な結果となりました。



講師：松野氏

■ 第3回 ■ 維持・メンテ、はたらきやすい空間など具体的な視点からのテーマで開催します。

開催日時：平成29年2月10日(金) 14:00～16:30

会場：名古屋第2合同庁舎 3階整備局大会議室

「正しい清掃で庁舎の資産価値を守る」
～その清掃管理、実はまちがいだらけ?～

講師：日本カーペットクリナーズアカデミー
吉廣 幸夫 氏

「イノベーションにつながる新しいはたらき方と
空間の多様性」

～少しの工夫で庁舎はこんなに幸せになる～

講師：株式会社 岡村製作所
花田 愛 氏 森田 舞 氏

事務局では、公共施設に不可欠な「長寿命化」、「コンパクトシティ」、「ストックの利活用」など賢く施設を使っていくためのキーワードをテーマに講演会の開催を実施してきましたが、今後も社会変化に応じた最新の話題や情報などFMに関するテーマを厳選し、参加される皆さまにとって有用な情報提供の場となるよう努めて参ります。

お問合せなどは下記連絡先へお願いいたします。

中部FM研究会 事務局 国土交通省 中部地方整備局 営繕部 調整課

企画係長 中村 仁 TEL:052-953-8188 MAIL:cbr-tyousei01@mlit.go.jp

平成28年度

「中部地区地球温暖化対策関係省庁連絡会」を開催

営繕部 調整課

平成28年11月10日、中部地方環境事務所及び中部経済産業局の協力を得て、中部地方整備局営繕部が事務局となり「中部地区地球温暖化対策関係省庁連絡会」を開催しました。

当営繕部では、地球温暖化対策の取組強化に資するため、施設の温室効果ガス排出削減計画の作成・推進に関する技術的な協力を平成18年度より実施しています。この削減計画に取り組んでいただいている施設管理者の方々を対象に、最新の状況等を報告する場としています。また、平成28年5月13日付地球温暖化対策推進本部幹事会申合せでの、政府実行計画の実施の支援体制についての一環としても取組んだものです。

1. 開催日時等

- 1) 日時：平成28年11月10日(木) 13:30～16:30
- 2) 開催場所：名古屋合同庁舎2号館／3階共用大会議室
- 3) 参加者：35名



会場の様子

2. 説明内容

○地球温暖化の動向について

中部環境事務所より、2012年～COP21(気候変動枠組条約締約国会議)までの動向・地球温暖化対策計画(平成28年5月13日閣議決定)について説明を行いました。

○エネルギーを巡る状況について

中部経済産業局より、エネルギーミックス策定後の動き・長期エネルギー需給見通しにおける省エネルギー対策について説明を行いました。

○合同庁舎等エネルギー使用量について

政府実行計画について

中部地方整備局より、各施設におけるエネルギー使用量の状況について及び政府実行計画について説明を行いました。

政府実行計画の主な対策について

- ・省エネルギー診断、LED照明、ソフト対策
- ・エネルギー消費の見える化とエネルギー管理の徹底(BEMSの導入等)

○LED照明器具について

一般社団法人 照明学会より、LEDの基礎・照明業界の動向・LED照明のリニューアルについてや実物による明るさの体験などの実演も交えた説明を行いました。



講師説明及びLED照明実演の様子

営繕部では、今後も、その特性に応じた有効な地球温暖化対策に関する情報提供を行う等必要な支援に努めてまいります。

事務局 国土交通省 中部地方整備局 営繕部 調整課

TEL: 052-953-8188 MAIL: cbr-tyousei01@milit.go.jp

顧客満足度調査(CS調査)について ～ 於:静岡地方法務局藤枝支局 ～

営繕部 技術・評価課

1. 調査主旨

本調査は、官庁施設の利用者(職員及び一般利用者等)に対し、アンケート調査等により「施設に関する満足度」及び「種々のニーズが施設の総合的な満足度に与える影響」を定量的に把握するとともに「要因分析、企画・設計段階へのフィードバック」を行うことにより、図1のようなPDCAサイクルの確立を図り、今後の官庁施設の改善及び顧客満足度の向上を目的に実施しています。

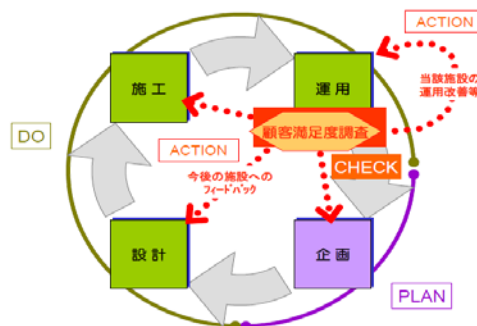


図1 施設整備におけるPDCAサイクル

2. 調査対象施設、調査時期、調査対象者

調査対象施設は合同庁舎、窓口官署の単独庁舎、不特定多数の利用が見込まれる施設の新築・増築等で、調査実施時期は新築・増築等で施設供用開始後1年以上経過した時期に行います。今回は共用開始後1年3ヶ月経過した静岡地方法務局藤枝支局(静岡県藤枝市)(写真:後掲載)を調査しました。調査対象者は、静岡地方法務局藤枝支局の全職員及び申請等により施設に来庁された一般利用者としてしました。

3. 調査対象施設の概要

静岡地方法務局藤枝支局は、当支局を含む3つの出張所を集約し、施設機能を高めることを目的に新たな敷地に鉄筋コンクリート造3階建、延べ面積2,975m²の庁舎を整備しました。建設地は静岡県藤枝市で、JR藤枝駅から500m程度の住宅が集まった地域にあり、周辺環境への影響、来庁者の利便及び快適性の確保、環境負荷低減などに配慮し整備を行いました。

4. 調査方法(アンケート用紙の配布・回収)

調査方法は職員にはアンケート用紙の配布・回答依頼を行いました。回答は対象とした全職員(33名)よりいただきました。施設に来庁された一般利用者には中部地方整備局営繕部及び静岡営繕事務所の職員が、庁舎の玄関ホールで調査目的の説明を行い、アンケート回答の依頼・回収を行いました。その結果100名の方のご協力をいただきました。

5. 調査結果の集計・取りまとめ

回収した職員及び一般利用者の回答アンケートから各設問に対する「満足度」の比率を目で見える単純集計票(図2)及び満足度レーダーチャート(図3)を作成しました。

図2では「満足」「大変満足」(凡例の赤色・橙色の部分)の占める割合が多ければ、各項目に対し調査対象者が満足していることとなります。

図3では総合的な満足度の項目(図2の項目名が黄色・緑色の項目)での満足度を示しています。

職員アンケート集計 単純集計票

凡例： 非常に不満 不満 どちらでもない 満足 大変満足

項目番号	項目名	不満	←	N	→	満足	満足度	標準偏差	不満率→	%	←満足率
問-1)	居心地よい	0%	3%	22%	34%	41%	4.13	0.87			
問-2)	働きやすい	0%	6%	16%	44%	34%	4.06	0.88			
問-3)	ふさわしい	0%	3%	22%	44%	31%	4.03	0.82			
問-4)	総合満足	0%	3%	19%	45%	32%	4.06	0.81			
問-5)	自席周り広さ	0%	13%	25%	31%	31%	3.81	1.03			
問-6)	周り気にならない	6%	3%	16%	28%	47%	4.06	1.16			
問-7)	仕事上の会話	3%	3%	28%	28%	38%	3.94	1.05			
問-8)	照明	3%	6%	13%	35%	42%	4.06	1.06			
問-10)	自席周り総合	0%	3%	23%	48%	26%	3.97	0.80			
問-11)1	執務室開放感	3%	0%	32%	32%	32%	3.90	0.98			
問-11)2	執務室整然	6%	3%	29%	39%	23%	3.68	1.08			
問-11)3	執務室内装	3%	0%	32%	42%	23%	3.81	0.91			
問-12)	執務室総合	3%	0%	29%	42%	26%	3.87	0.92			
問-13)	収納スペース	6%	10%	26%	32%	26%	3.61	1.17			
問-14)	書庫について	3%	14%	28%	34%	21%	3.55	1.09			
問-15)	室内移動	10%	13%	30%	30%	17%	3.30	1.21			
問-18)	会議室	4%	0%	29%	32%	36%	3.96	1.00			
問-19)	外来者対応スペース	3%	16%	19%	32%	29%	3.68	1.17			
問-21)	執務室の見通し	0%	6%	26%	39%	29%	3.90	0.91			
問-23)	仕事スペース総合	0%	6%	26%	48%	19%	3.81	0.83			
問-25)1	玄関雰囲気	0%	0%	25%	34%	41%	4.16	0.81			
問-25)2	玄関不満	3%	3%	34%	25%	34%	3.84	1.05			
問-26)1	施設内移動行き先	6%	13%	16%	22%	44%	3.84	1.30			
問-26)2	施設内移動その他	7%	23%	13%	27%	30%	3.50	1.33			
問-27)	トイレ	3%	13%	13%	25%	47%	4.00	1.19			
問-28)1	休憩室(リフレッシュ)利用	9%	6%	6%	25%	53%	4.06	1.32			
問-28)2	休憩室(リフレッシュ)不満	7%	13%	10%	40%	30%	3.73	1.23			
問-30)	ゴミ処理	3%	0%	26%	35%	35%	4.00	0.97			
問-32)	駐車場	13%	7%	23%	33%	23%	3.47	1.31			
問-33)	駐輪場	0%	7%	13%	40%	40%	4.13	0.90			
問-34)	執務室以外総合	0%	6%	23%	42%	29%	3.94	0.89			
問-35)	暑さ寒さ	16%	19%	19%	29%	16%	3.10	1.35			
問-36)	風におい	3%	10%	16%	52%	19%	3.74	1.00			
問-37)	快適性総合	7%	10%	23%	47%	13%	3.50	1.07			
問-38)	歩車分離	0%	0%	48%	42%	10%	3.61	0.67			
問-39)	お年寄り等利用安全性	0%	6%	32%	52%	10%	3.65	0.75			
問-40)	利用者安全安心総合	0%	0%	39%	50%	11%	3.71	0.66			
問-41)	建物外観印象	3%	6%	26%	32%	32%	3.84	1.07			
問-42)	建物周り雰囲気	3%	10%	23%	42%	23%	3.71	1.04			
問-43)	地域影響(総合)	0%	3%	52%	26%	19%	3.61	0.84			
問-44)	OP 木製格子の印象(玄関ホール)	7%	0%	20%	47%	27%	3.87	1.04			
問-45)	OP 木製格子の印象(外観)	7%	3%	23%	40%	27%	3.77	1.10			

一般利用者(来庁者)アンケート集計 単純集計票

項目番号	項目名	不満	←	N	→	満足	満足度	標準偏差	不満率→	%	←満足率
問①	親しみやすい	2%	3%	35%	23%	36%	3.89	1.01			
問②	総合満足	2%	2%	35%	18%	42%	3.97	1.02			
問③	利用目的に対する利用しやすさ	4%	5%	24%	28%	39%	3.92	1.10			
問④	施設内移動行き先	4%	5%	40%	23%	27%	3.63	1.08			
問⑤	駐車場	8%	19%	27%	13%	32%	3.42	1.33			
問⑥	駐輪場	1%	3%	51%	13%	31%	3.70	1.00			
問⑦	利用しやすさ総合満足	1%	9%	26%	32%	32%	3.85	1.01			
問⑧	暑さ寒さ	0%	1%	22%	23%	54%	4.29	0.85			
問⑨	快適性総合満足	0%	3%	19%	24%	53%	4.28	0.88			
問⑩	お年寄り等利用安全性	3%	4%	29%	29%	34%	3.86	1.04			
問⑪	利用者安全安心総合満足	2%	2%	29%	33%	34%	3.93	0.96			
問⑫	地域影響(総合)	5%	11%	31%	27%	26%	3.59	1.14			
問⑬	OP 木製格子の印象(玄関ホール)	1%	2%	16%	29%	52%	4.29	0.88			
問⑭	OP 木製格子の印象(外観)	1%	2%	15%	31%	51%	4.29	0.87			

図2 単純集計票(上:職員 下:一般利用者)

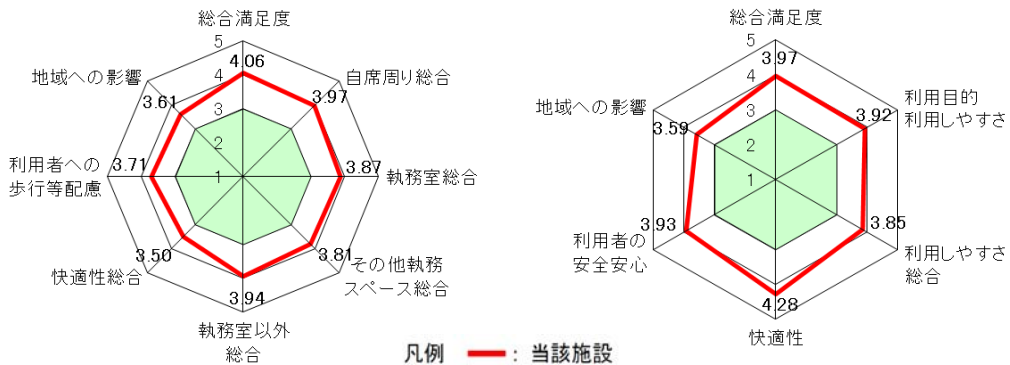


図3 満足度レーダーチャート(左:職員 右:一般利用者)

6. 考察

調査結果の集計より、職員では満足度が高い項目は「居心地よい」「働きやすい」「玄関雰囲気」等となりました。

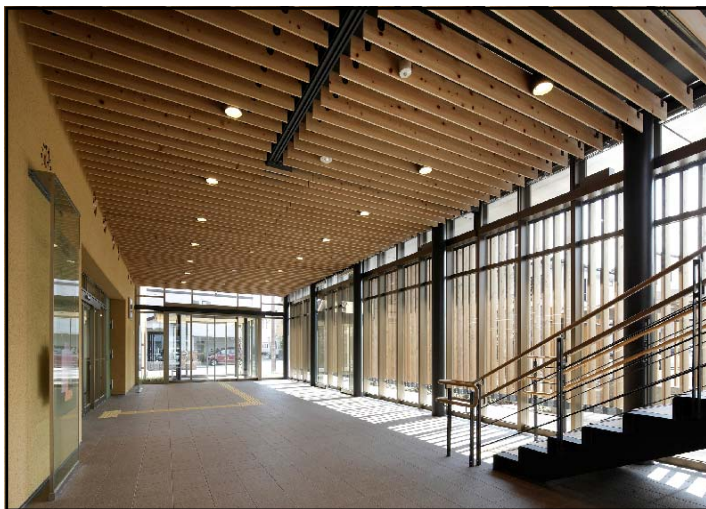
また評価の平均である満足度3.0を下回る項目はありませんでしたが、他項目と比べて満足度が低かった項目は「暑さ寒さ」等となりました。「暑さ寒さ」は冷暖房に対する不満というより、中間期における通風に対する評価であることが確認できました。

一般利用者では満足度が高い項目は内外部の「木製格子の印象」等となりました。

外部の木製格子は外壁に木材を積極的に利用することで、宅地に配慮した優しい表情の外観にできたこと等により満足度が高くなった(印象が良かった)と思われます。

また職員と同様に評価の平均である満足度3.0を下回る項目はありませんでしたが、他項目と比べて満足度が低かった項目は「駐車場」等となりました。

「駐車場」は駐車スペース幅は2.5m程度(一般的な標準寸法は2.3m以上)で整備していますが、駐車場のほとんどがピロティー(地上部分が柱を残して外部空間とした形式)の部分にあり、その柱により見通しが悪く、駐車がしにくいこと等が満足度が低くなった理由の一つであると考えられます。



玄関ホール



外観 (南西面)

7. おわりに

今後も営繕部及び静岡営繕事務所で整備した施設においては、必要に応じ顧客満足度調査の実施及びデータ解析を行い、「1. 調査主旨」に記載の「PDCAサイクル」を確立させ、官庁施設の施設整備において、その施設を使用する一般利用者の方々及び職員等に対して可能な限り満足して頂けるように品質の向上に向けて努力していきます。

最後にアンケート調査にご回答いただきました皆様には、ご多忙中にもかかわらずご協力いただきありがとうございました。

浜松市立入野中学校への出前講座 ーテーマ：防災とユニバーサルデザインー

営繕部整備課 ・ 静岡営繕事務所

1. はじめに

静岡県浜松市立入野中学校では、昨年度から防災部(部活動)を設立するなど、防災活動に取り組んでいます。今年度、3日間に渡る防災学習の一環として、6つの体験講座の中から生徒が希望する講座を受講する取り組みが行われ、私どもはその中の「防災とユニバーサルデザイン」と題した講座依頼を受けました。平成28年11月1日、整備局出前講座として整備課及び静岡営繕事務所より講師3名で学校へ伺いました。

本講座は中学1年生を対象とし、目的は、ユニバーサルデザイン(以下:UD)の考え方を学び、「避難所としての学校」という視点で建築物の専門家と一緒に校内を巡回することで、この学校が実際に避難所になった場合に、自分たちに何が出来るかを考える機会とするものです。

講座の進め方は、「座学」と「実習」という構成で約半日かけて行いました。以下にその概要をお知らせします。

2. 「ユニバーサルデザインの考え方を踏まえた公共建築」(座学)

教室でパソコン画面を見ながらUDの概念、関係法令が制定された経緯などを説明の後、中部地方整備局営繕部で実際に行った、浜松地方合同庁舎におけるユニバーサルデザインレビュー等の取り組みを紹介しました。

レビューの目的は、UDの視点に立ったニーズの把握、解決策の検討、評価、フィードバック(以降の施設整備への評価結果の反映)といった一連の作業を、事業の企画・設計・施工・フォローアップの各段階において繰り返し、常に前回よりも高い水準を達成するスパイラルアップの取組であることを理解してもらうことができました。

また、参加型(クイズ形式)で不具合事例紹介と改善策を解説しました。生徒たちの多くは小学生の時からUDの基礎を勉強してきており、全問正解の結果で感心させられました。



(座学の様子)



(実習の様子)

3. 「UD、防災・避難、保全」の視点で校内点検(実習)

次に、生徒と共に校内を巡回し、現状の手すり・スロープ・トイレ機能などがUDとして足りていること、足りていないことを点検し理解を深めました。ハード面整備のみではすべてをまかなうことは出来ないこと、そのため災害時にお年寄りや体の不自由な方が避難してきた際、中学生の案内や介助などの手助けがとても役に立ち、大切であることを理解してもらうことができました。

また、学校に備わっている防火扉、非常用照明、屋内消火栓、受水槽などの設置理由や機能

を説明し、家具類の固定の大切さなど非常時に容易に避難できるように備えておくことも理解してもらうことができました。

さらに、保全に関しては、屋上排水ドレンまわりの目視点検、外壁の打診点検などを行い、建物を良好な状態に保ち、長く使用していくために必要な定期点検、修繕、清掃の大切さについても理解してもらうことができました。

4. 最後に

後日、本講座を選択し受講してくれた生徒たちからたくさんのお礼の手紙をいただいています。その一部を紹介しますと、

- ・UDはすべての人が使いやすいように考えられていることを知った。
- ・多機能トイレの設置理由・設置位置がすべての利用者のことを考えていることを知った。
- ・災害時に何をしたらよいか、〇〇をしてあげたい。など意欲が沸いてきた。
- ・学校に設置された各設備の役割、使いやすく進化してきた過程を知った。

など、今回の講座、校内点検で学んだことを「この先に役立てていきたい、困っている人を助けてあげたい」という前向きな内容ばかりでした。今後とも私たちが庁舎整備という実務で培ってきた「UD」への取り組みについて紹介していきたいと考えています。

こうした機会を持てたことに感謝しつつ、今回の出前講座は説明者としても大きな意義があったと感じました。

公共建築相談窓口も設置しておりますのでご遠慮なく相談してください。

電話番号： 052-953-8197 (営繕部 計画課)
E-mail : eikei85@mlit.go.jp

詳しい業務内容等につきましては、ホームページもご覧ください。
(<http://www.cbr.mlit.go.jp/eizen/index.htm>)

事務局 : 中部地方整備局営繕部 計画課
電話番号 : 052-953-8186 e-mail : keikaku@mlit.go.jp